

最優秀賞

日揮社会福祉財団ふれあい賞

きょうだい児

神奈川県立平塚中等教育学校

二年 工藤美岬

あなたは「きょうだい児」という言葉を知っているだろうか。きょうだい児とは、重い病気や障害を抱えている兄弟姉妹がいる子どものことである。そして私もきょうだい児である。私の兄は重度の自閉症と知的障害を持っている。

きょうだい児だからといって特別なにかあるわけでもない。ただ普通に兄弟姉妹が居るだけだ。しかし、その兄弟姉妹が病気や障害があるだけで特別視されてしまう。そうなる世間の目が鋭くなる。私が兄のことを説明すると、かわいそうとか聞いてはいけないものを聞いてしまったような顔をする。

意味不明な発言や、見た目に合わない幼稚な行動をする兄に不信感を持つのは無理もない。

しかし、そんな兄を見て傷付くような言葉を私にかけられたことがある。小学校低学年の頃、兄と同じスイミングスクールに通っていた同級生の男子に、

「お前の兄ちゃん、いつも変な事をしゃべってて気持ち悪い。」とからかいながら言われたことがある。私はその言葉に心を抉られた。当時は小学校低学年だったのもあって、おそらく言った本人たちは兄が障害を持つてゐることは知らなかったと思う。しかし、私はこの言葉をかなり引きずつてゐる。今でも兄と一緒にいるところを人に見られるとこの言葉を思い出してしまふ。

他にはこんな経験がある。友達と話していると、自分の兄弟や姉妹の話になった。みんなが兄弟の年齢とか話していると、もちろん私の兄の年齢も聞かれる。兄は二十歳であり、本来は大学や就職をしている年齢である。二十歳であることを説明すると大体、

「どこの大学通つてゐるの。」

と聞かれる。そして、

「大学は行つてないで、就職してゐるよ。」

と答える。そう答えると友達は

「あつ働いてゐるんだ。」

と少し驚くような顔をする。この会話だけだと兄は高卒で働いてゐると思われる。そのため後に、

「障害を持つてゐて大学には行けないから、障害を持つてゐる人でも働けるところで働いて

いるよ。」

と補足する。そうすると聞いてはいけないような顔をされ、気まずい空間になる。そういう顔をされるのはしょうがないことだとは分かっている。分かっているが悲しい気持ちになる。障害持ちの兄は友達にとつては異様かもしれないが、私にとつては普通のことなのである。だからこそ、あのような顔をされると孤独感や周りとは違う異質感を感じてしまう。

私はきょうだい児を特殊なものではなく、普通ととらえてほしいと思っっている。それと同時に障害に理解がある世の中になってほしいと思う。障害にも、身体の欠損など目に見える障害と脳や心に障害がある目に見えない障害がある。目に見えない障害は、障害者か健全者かわからない時があるが、なるべく思いやりを持ってほしい。また、きょうだい児には普通に接してほしい。周りと同じ兄弟姉妹がいるだけだから。